

公益社団法人全国老人福祉施設協議会
老施協総研
令和元年度 調査研究助成事業

介護職員が行う標準化された口腔ケアの入院予防効果および
医療費削減効果の検証
～口腔ケアの科学的介護への確立に向けて～
研究報告書

2020 年 3 月

九州大学大学院 歯学研究院 口腔顎顔面病態学講座 口腔医療連携学分野

瀧内 博也

公益社団法人 全国老人福祉施設協議会

令和元年度 調査研究助成事業

介護職員が行う標準化された口腔ケアの入院予防効果および医療費削減効果の検証
～口腔ケアの科学的介護への確立に向けて～

(所属先) 九州大学大学院 歯学研究院
口腔顎顔面病態学講座 口腔医療連携学分野
(申請者名) 瀧内 博也

令和元年(2020)年4月

目次

I. 事業の目的	_____	○
1. 事業の目的		
2. 事業概要		
3. 調査研究の過程		
II. 事業結果	_____	○

老施協総研調査研究助成事業 報告書

介護職員が行う標準化された口腔ケアの入院予防効果および医療費削減効果の検証
～口腔ケアの科学的介護への確立に向けて～

(所属先) 九州大学大学院 歯学研究院

口腔顎顔面病態学講座 口腔医療連携学分野

(申請者名) 瀧内 博也

(報告書 A 4 版 8 頁)

事業目的

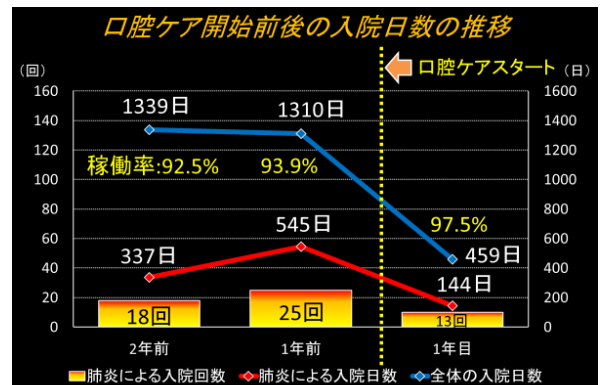
介護職員が標準化された週2回の口腔ケアを行うことで、誤嚥性肺炎のみならず全体の入院日数を減少させる（全ての疾患を予防できる）ことが可能であるか検証し、その医療費削減効果を明らかにする。そして、口腔ケアを科学的介護として確立させていくとともに、本研究の効果を基とした現行加算制度の評価および新規加算の創設を図る。

事業概要

【研究の視点】

歯科医師・歯科衛生士が行う週1回の専門的口腔ケアで、介護施設の入居者の誤嚥性肺炎を予防できることが知られている。そこで、我々は口腔ケアの普及を目指し、介護職員が簡単に負担なく行える、器具・手順をシンプルに統一した標準化された週2回の口腔ケアを考案し、福岡市の特別養護老人ホーム（以下、特養）（入居定員69名）で、口腔ケアに取り組んできた。すると肺炎の入院日数は年間で約1/4に減少し、介護職員が行う週2回の口腔ケアによっても、肺炎が予防できることが明らかとなった。また、肺炎だけでなく、全体の入院日数も約1/3に減少することとなった。これは、介護職員の手で多くの命が守られたということであり、更に施設収入は約1200万円増加し、入院医療費は約4250万減少したこととなる。正に三方良しの結果を生むこととなった。

介護職員が行う標準化された週2回の口腔ケアで、全体の入院日数が減らせることが真実ならば、介護の力で多くの命を守れることとなる。また、施設収入の増加による施設経営状況の改善や、入院医療費の削減による多大な社会貢献が期待される。さらに、介護職員も口腔ケアによる専門性の向上や社会的な地位向上が図られる。そこで、本研究では、介護施設の入居者を対象に標準化された週2回の口腔ケアを実施し、嚥性肺炎のみならず全体の入院日数を減少させることが可能であるか検証することで、口腔ケアの科学的介護の確立を目指すこととする。



事業概要
(続き)

【内容および手法】

研究対象：福岡市内の特養 9 施設

(基礎情報：合計入居定員：477 名、平均年齢：86.9 歳、男：女=17.1：82.9)

研究方法：①平成 29 年度、30 年度の入院状況の調査を行う。そのため、各施設から入院状況の提供を受ける。入院の期間・理由については、入居者のフェイスシートや介護・看護記録から抜き出す。入院理由に 2 項目以上の記載があるものについては、その主たる入院理由となったものを施設職員から聞き取りを行って決定する。

②令和元年度（平成 31 年度）中に、介護職員が全入居者を対象に標準化された週 2 回の口腔ケアを実施する。入院日数の推移をもとに、肺炎および全体の入院日数の削減が可能であるか検討を行う。また、入院日数の削減効果をもとに、その費用対効果を算出する。

標準化された週 2 回の口腔ケアは以下の 3 ステップで進める。



I：全介護職員を対象に、口腔ケアセミナーを行う。

セミナーの内容は約 2.5 時間の講義と実技実習で構成
(株)クロスケアデンタルの歯科医師が実施

II：全入居者を対象に、標準化された口腔ケアを行う。

標準化された週 2 回の口腔ケアはブラッシング、リハビリテーションで手順・内容・方法を統一しており、器具も統一している
口腔ケアセミナーを受講した介護職員が実施

III：介護職員を対象に、口腔ケア指導を行う。

入居者ごとの注意点の指導と職員の技術指導を行う
(株)クロスケアデンタルの歯科衛生士が実施

調査研究の過程

- ① R1. 5. 27 福岡市老施協特養部会の総会にて、口腔ケアに関する特別講演を行い、本事業の説明および各事業所への参加を募った。
- ② R1. 6～10月 下記の特養9施設（合計定員477名）の入院日数の調査を行った。
 - ・ 社会福祉法人飯盛会 特養サンガーデン（入居定員：29名）
 - ・ 社会福祉法人ふれあい 特養さわらふれあいの里（入居定員：70名）
 - ・ 社会福祉法人今山会 特養寿生苑（入居定員：80名）
 - ・ 社会福祉法人今山会 特養美の里（入居定員：29名）
 - ・ 社会福祉法人清風会 特養洸寿園（入居定員：100名）
 - ・ 社会福祉法人徳和会 特養花の季苑（入居定員：50名）
 - ・ 社会福祉法人筑前伊都の会 特養松生園（入居定員：50+20名）
 - ・ 社会福祉法人福岡ケアサービス 特養初花（入居定員：49名）
- ③ H31. 4月～ 特養サンガーデンで介護職員による週2回の口腔ケアの開始
- ④ R1. 10月～ 特養さわらふれあいの里で介護職員による週2回の口腔ケアの開始
- ⑤ R2. 4月 本研究から得られた結果のまとめ、考察

事業結果

I：肺炎および全ての入院日数の発生状況

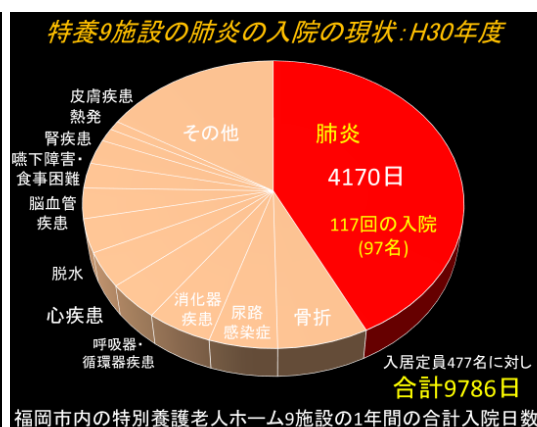
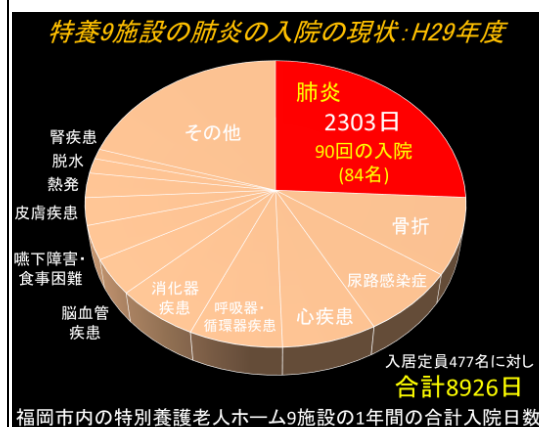
	合計	施設①	施設②	施設③	施設④	施設⑤	施設⑥	施設⑦⑧	施設⑨
	477名	29名	70名	80名	29名	100名	50名	50+20名	49名
肺炎	日 2303	179	130	63	121	970	19	351	94
⇒全体入院に対する割合：肺炎/全体	% 25.8	27.4	22.3	11.0	28.7	37.0	8.8	30.1	8.4
⇒入居定員に対する割合：肺炎/入居定員	日/名 4.8	6.2	1.9	0.8	4.2	9.7	0.4	5.0	1.9
⇒回数	回 90	9	8	5	4	23	2	16	6
⇒人数	名 84	8	7	5	4	20	2	15	6
骨折	日 778		163	47		79		111	219
尿路感染症	日 678	24	103	13	44	53	54	85	187
心疾患	日 656	23	80	49	205	138		31	20
呼吸器・循環器疾患	日 647	10			7	259	19	143	40
消化器疾患	日 576	252	45	95		68		49	19
脳血管疾患	日 365	9	24	30		151		125	
嚥下障害・食事困難	日 342				26	179	7		
皮膚疾患	日 275		7	15		32	40	55	72
熱発	日 249					2		92	51
脱水	日 151			37		74		7	
腎疾患	日 102				2	45	32		23
その他	日 1804	157	32	225	17	569	44	116	391
合計	日 8926	654	584	574	422	2619	215	1165	1116
平成29年度の入院日数									
	合計	施設①	施設②	施設③	施設④	施設⑤	施設⑥	施設⑦⑧	施設⑨
	477名	29名	70名	80名	29名	100名	50名	50+20名	49名
肺炎	日 4170	203	233	284	139	2481	53	324	453
⇒全体入院に対する割合：肺炎/全体	% 42.6	25.7	25.2	21.2	26.1	59.9	29.9	27.9	63.2
⇒入居定員に対する割合：肺炎/入居定員	日/名 8.7	7.0	3.3	3.6	4.8	24.8	1.1	4.6	9.2
⇒回数	回 117	7	17	9	7	44	4	15	14
⇒人数	名 97	6	15	8	6	36	4	12	10
骨折	日 690	122	200	139	34			195	
尿路感染症	日 519		56	32	32	232	9	126	32
消化器疾患	日 499	97	88	55		186		49	24
呼吸器・循環器疾患	日 405	1	37		9	292	39	27	
心疾患	日 385	48	48	118	24	40		71	36
脱水	日 368		5	65	38	240	11	5	4
脳血管疾患	日 334	127	32	46	72	33		24	
嚥下障害・食事困難	日 278	58	17		69	72		53	9
腎疾患	日 273	41	70	44		88	22	8	
熱発	日 146	20		15				111	
皮膚疾患	日 103		13			22		62	6
その他	日 1616	74	125	544	115	457	43	105	153
合計	日 9786	791	924	1342	532	4143	177	1160	717
平成30年度の入院日数									

平成29年度では9事業所（総入居定員477名）に対して、年間の入院日数の合計は8926日であった。その中で最も多い入院は肺炎によるもので84名が繰り返しを含めて90回の入院で合計2303日（25.8%）の入院日数であった。定員に対して、約17.6%の者が肺炎によって入院していることが明らかとなった。また、肺炎の入院の割合は8.4～37.0%、入居定員に対する肺炎の入院の割合については0.4～9.7日/名と、施設間で大きな開きがあることが明らかとなった。

事業結果
(続き)

平成30年度では9事業所（総入居定員477名）に対して、年間の入院日数の合計は9786日であった。その中で最も多い入院は肺炎によるもので97名が繰り返しを含めて117回の入院で合計4170日（42.6%）の入院日数であった。定員に対して、約24.5%の者が肺炎によって入院していることが明らかとなった。

また、肺炎の入院の割合は21.2～59.9%、入居定員に対する肺炎の入院の割合については1.1～24.8日/名と、施設間で大きな開きがあることが明らかとなった。



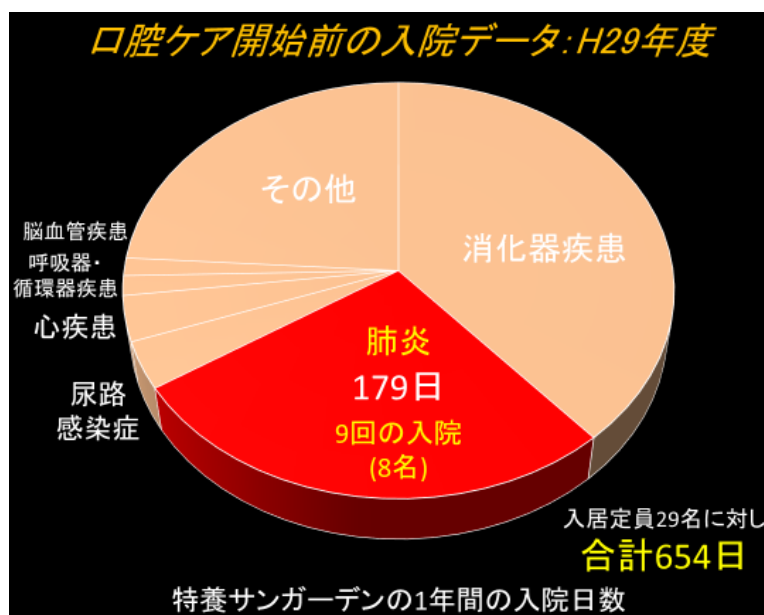
特養では入院の中で肺炎が多くを占めていることが分かった。また、肺炎による1日当たりの入院医療費は約5万と言われており、試算すると平成30年度では477名の定員に対して、年間約2億円という膨大な医療費が使用されていることになる。また、特養ユニット型では入院1日当たり約1.4万円の介護保険請求の減額となるため、試算すると平成30年度では477名の定員に対して、年間約5.8億円の事業所の収入減少につながっていることになる。これらより、介護現場で起きている肺炎によって、入居者、事業所、そして医療費など様々な方面に膨大な損失を生んでいることが明らかである。



事業結果
(続き)

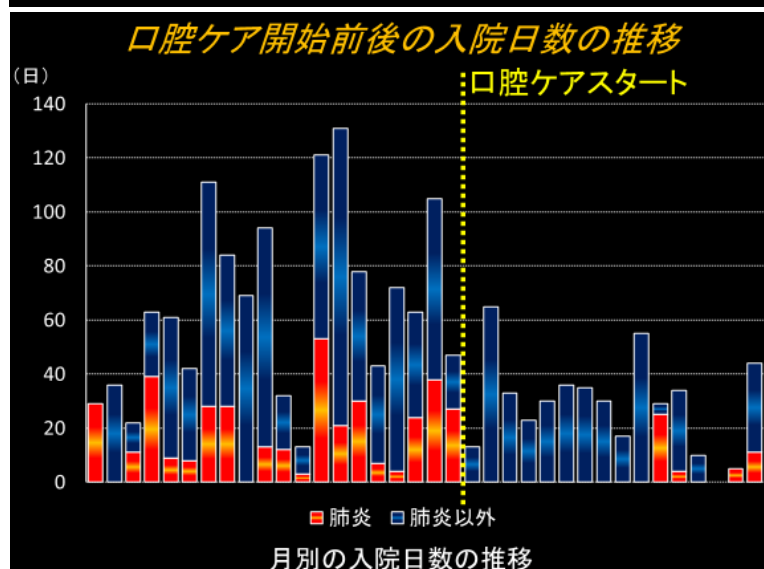
Ⅱ： 口腔ケア前後の入院日数の推移

・ 社会福祉法人飯盛会 特別養護老人ホームサンガーデン(入居定員：29名)

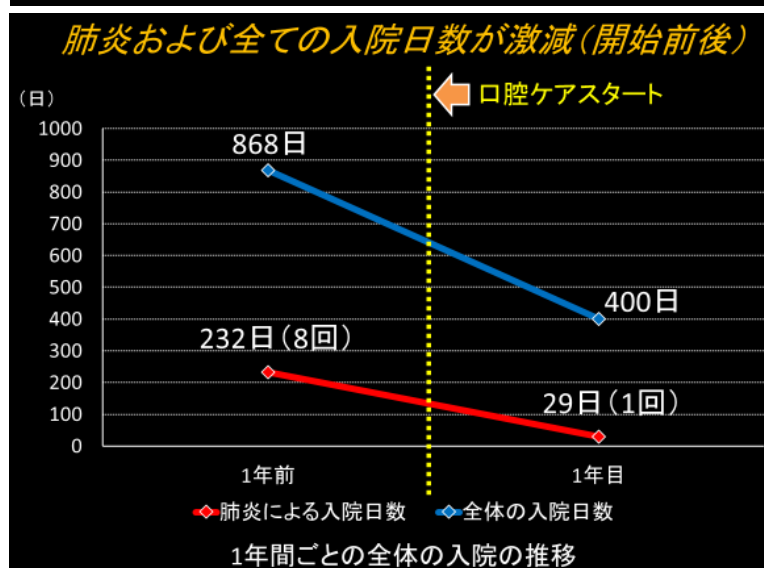


口腔ケア開始前である平成29年度の合計入院日数は654日であった。その中で肺炎による入院は179日(8名が合計9回の入院)であった。

口腔ケア開始直後から肺炎による入院は減少し、1年間で232日(8回)⇒29日(1回)と約1/8に減少した。更には全体の入院日数も868日⇒400日と約1/2に減少した。



これにより、介護職員が行う口腔ケアでも、肺炎を予防できることが明らかとなった。また、肺炎のみならず全ての入院も減少させることが明らかとなった。

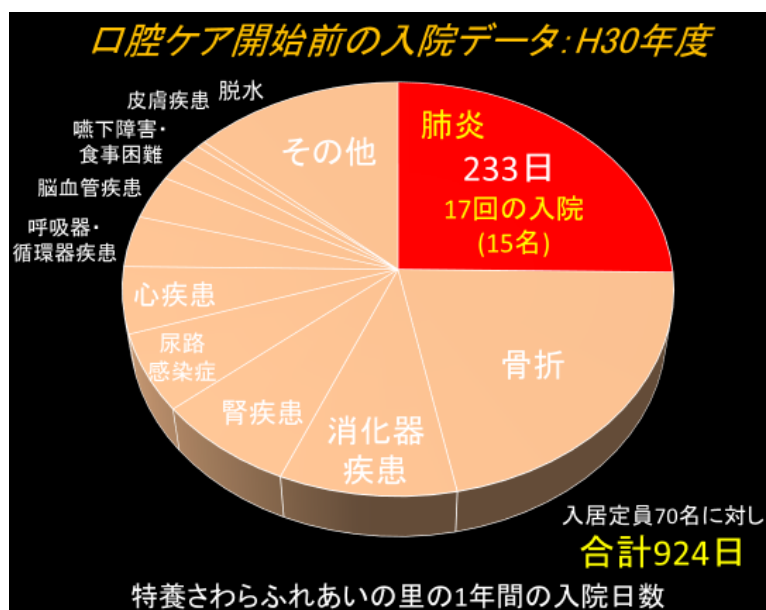


試算すると入居定員29名のこの施設では口腔ケアにより、一年間で施設収入は約655万円増加し、入院医療費は約2340万円削減したことになる。

事業結果
(続き)

Ⅱ：口腔ケア前後の入院日数の推移

・社会福祉法人ふれあい 特別養護老人ホームさわらふれあいの里(入居定員：70名)

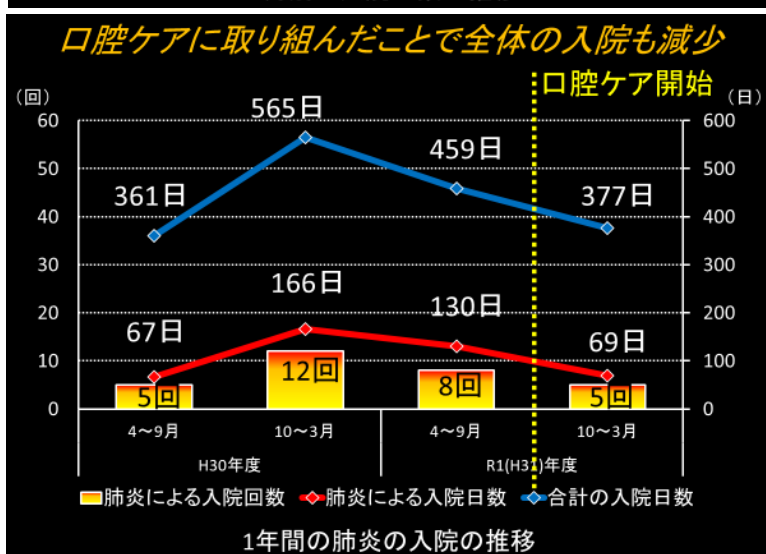
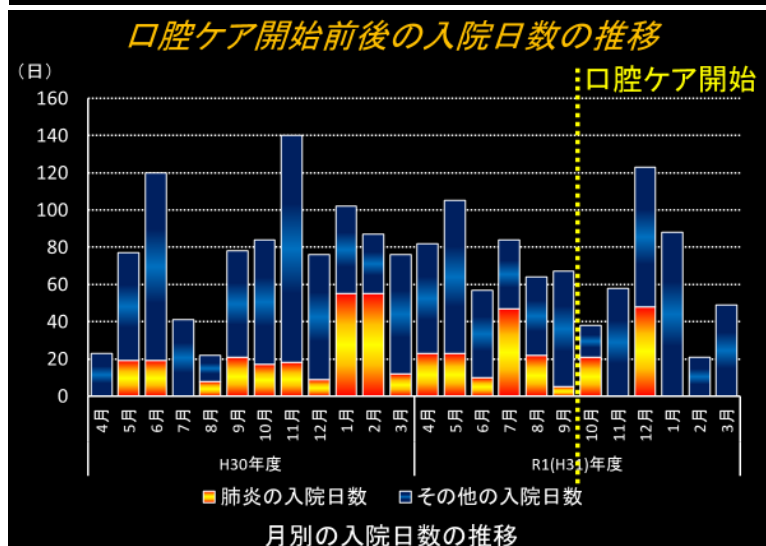


口腔ケア開始前である平成30年度の合計入院日数は924日であった。その中で肺炎による入院は233日(15名が合計17回の入院)であった。

口腔ケア開始直後から肺炎による入院は減少し、半年間で166日(12回)⇒69日(5回)と約2/5に減少した。更には全体の入院日数も565日⇒377日と約2/3に減少した。

これにより、介護職員が行う口腔ケアでも、肺炎を予防できることが明らかとなった。また、肺炎のみならず全ての入院も減少させることが明らかとなった。

試算すると入居定員70名のこの施設では口腔ケアにより、半年間で施設収入は約263万円増加し、入院医療費は約940万円削減したことになる



事業結果
(続き)

《まとめ》

まとめ

本研究によって、
介護職員が行う標準化された週2回の口腔ケアで
・肺炎の入院を予防できる
・肺炎のみならず全ての入院を予防できる
ことが明らかとなった。これは即ち、介護の力で
・命を守れる可能性
・介護事業所の収入改善の可能性
・膨大な医療費の削減の可能性
が示されたということである。

今後は、対象施設数を増やし、より広範囲の施設の現状把握を行い、口腔ケアの実践を通し、その結果を蓄積していく必要がある。また、全ての入院が減少した理由としては、口腔ケアのリハビリテーションにより低栄養が改善し、更には免疫力が改善することで、全ての疾患の予防につながったものと考えている。今後は、その経路の解明のための検討も行っていく。

全国の特養で口腔ケアを実践したならば



年間100～150億円の医療費の削減の可能性

本研究によって得られた結果から

全国の特養利用者：約60万人
入居定員1名当たりの平均入院日数：約20日
⇒年間の入院医療費は約300億円

標準化された週2回の口腔ケアによる入院日数の削減量：年間1/3～1/2
⇒年間の医療費削減量は約100～150億円

と試算することができる。

現在、口腔ケアに関する介護保険の加算としては、口腔衛生管理体制加算、口腔衛生管理加算が代表的である。特に口腔衛生管理加算では、歯科衛生士による月2回の口腔ケアの実施や指導が規定されているが、その口腔ケアの内容には踏み込まれていない。そのため、この口腔ケアとこの加算を紐づけする検討は重要である。もしくは歯科衛生士を現場配置しやすいような加算（仮：歯科衛生士配置加算）の創設も検討すべきである。もしくは、現場の介護職員が行う口腔ケアのベースにこの口腔ケアを規定し、口腔ケア実施に伴う加算（仮：口腔ケア実施加算）の創設も検討すべきである。

事業実施機関

九州大学大学院 歯学研究院
口腔顎顔面病態学講座 口腔医療連携学
〒812-8582 福岡県福岡市東区馬出 3-1-1
TEL092-986-9600